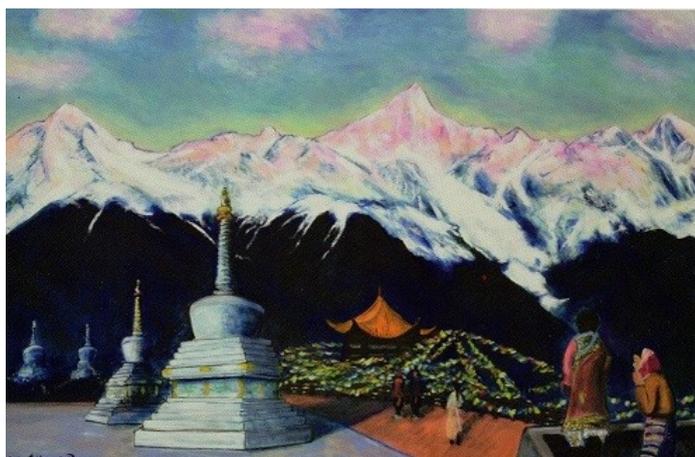




「シャングリラ白馬雪山」F100 号



梅里雪山「カワカブの祈り」F120 号

例年の昆明での交流を終えて今回はシャングリラから梅里雪山を訪ねた。梅里雪山は 1991 年の 1 月、梅里雪山の初登頂を目指していた京都大学学士山岳会と中国登山協会の合同登山隊の隊員 17 人が、登山中に突然消息を絶ちました。雪崩に巻き込まれて氷河に流されたようです。事故から 7 年後、遺体の一部が氷河から発見され、以降 16 名の遺体がつぎつぎと収容されました。湘南日本中国友好協会総会講演会でこの悲劇を京都大学学士山岳会小林尚礼さんに講演いただきました。

いつもの伍金貴先生の案内で湘南日中会員総勢 8 名でシャングリラの旅に参加。シャングリラはすでに 3,200m の高地で酸素ボンベを吸いながらの旅です。梅里雪山はさらに高地になります。小林尚礼さんのお話では梅里雪山はなかなか姿を見せてくれないとのことでした。ホテルから梅里雪山は目の前にそびえています。翌朝朝日に輝く梅里雪山を見たいと暗いうちに起床。幸運にもきれいに晴れ渡った梅里雪山が望めました。だんだんと梅里雪山が赤く染まって息をのむ美しさでした。寒さを忘れてスケッチをしました。

シャングリラから梅里雪山へ来るときはトンネルを抜けてきましたが帰路は運転手さんの意見で白馬雪山の峠を車で行くことになりました。天気が良かったので白馬雪山はまた素晴らしい景色でした。峠はなんと海拔 4,292m です。酸素ボンベをいっぱい吸ってから下車。今までに一番高いところへ降り立ちました。だいぶ身体も高地に慣れていましたので問題はありませんでした。運転手さんの計らいで本当に良かったです。